

「釧路湿原自然再生協議会」

第39回 再生普及小委員会

令和5年12月1日

釧路湿原自然再生協議会運営事務局

釧路湿原自然再生協議会
第39回 再生普及小委員会

日時：令和5年12月1日（金）15:05～16:20
対面およびオンライン（Zoom）開催

----- 議 事 次 第 -----

- 1, 開会
- 2, 議事
 - 1) 再生普及小委員会の活動報告
 - 2) その他

----- 配 布 資 料 -----

- ・ 議事次第
- ・ 再生普及小委員会 委員名簿
- ・ 第39回再生普及小委員会 資料
 - [資料2] 第4期釧路湿原自然再生普及行動計画の取組状況について
 - [別添資料2-1] 市民参加の取組み実施状況
 - [別添資料2-2] 参加者アンケート集計結果 2023
 - [参考資料] 【参加委員からの情報提供】 釧路市_湿原教育資料
- ・ 第4期 釧路湿原自然再生普及行動計画
- ・ 第38回再生普及小委員会 ニュースレター
- ・ 意見・要望アンケート用紙

釧路湿原自然再生協議会
再生普及小委員会 委員名簿

計:79名

■個人(37名)

(敬称略、五十音順)

No.	氏 名	所 属
1	荒 谷 邦 雄	九州大学大学院比較社会文化研究院
2	石 岡 透	
3	伊 藤 毅	上智大学
4	甲 斐 田 直 子	筑波大学システム情報系 (社会工学域)
5	金 子 正 美	酪農学園大学 農食環境学群 環境共生学類 教授
6	川 嶋 啓 太	
7	神 戸 忠 勝	
8	木 附 晃 実	九州大学共創学部 准教授
9	君 塚 孝 一	(有)自然文化創舎
10	木 村 勲	
11	小 松 繁 樹	
12	坂 井 一 浩	八千代エンジニアリング株式会社北海道営業所
13	貞 國 利 夫	釧路市立博物館
14	佐 野 修 久	大阪市立大学大学院 都市経営研究科
15	清 水 信 彦	
16	新 庄 久 志	釧路国際ウェットランドセンター技術委員長(環境ファシリテーター)
17	杉 澤 拓 男	
18	関 基	八千代エンジニアリング株式会社北海道営業所
19	高 崎 優 子	北海道教育大学教育学部釧路校
20	高 嶋 八 千 代	
21	高 橋 忠 一	
22	竹 中 康 進	
23	橋 利 器	トラウトフォーラム会員
24	鶴 間 秀 典	
25	照 井 滋 晴	特定非営利活動法人 環境把握推進ネットワーク-PEG 代表
26	中 村 太 士	北海道大学大学院 農学研究院 教授
27	平 岡 俊 一	滋賀県立大学 環境科学部環境政策・計画学科 准教授
28	蛭 田 眞 一	
29	藤 岡 悠 一 郎	九州大学共創学部 准教授
30	松 本 文 雄	
31	矢 吹 哲 夫	北星学園大学 経済学部 教授
32	山 本 太 郎	一般財団法人北海道河川財団
33	吉 中 厚 裕	酪農学園大学
34	吉 村 暢 彦	北海道大学環境科学院
35	渡 部 哲 史	九州大学
36	渡 邊 剛 弘	上智大学
37	渡 辺 義 勇	

■団体(27名)

(敬称略、五十音順)

No.	団体/機関名	代表者名
1	阿寒国際ツルセンター (グルス)	主任解説員 河瀬 幸
2	株式会社日野組	代表取締役 日野 貴
3	釧路観光連盟	会長 中山 勝範
4	釧路国際ウェットランドセンター	理事長 蝦名 大也

No.	団体/機関名	代表者名
5	釧路自然保護協会	会長 神田 房行
6	釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会	代表幹事 芳賀 孝朋
7	釧路湿原国立公園連絡協議会	会長 蝦名 大也
8	釧路シャケの会	会長 清水 信彦
9	釧路武佐の森の会	会長 大西 英一
10	こどもエコクラブくしろ	近藤 一燈美
11	公益財団法人日本鳥類保護連盟釧路支部	支部長 本藤 泰朗
12	公益財団法人日本野鳥の会 鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ	チーフレンジャー 原田 修
13	公益財団法人北海道環境財団	理事長 小林 三樹
14	国立研究開発法人 土木研究所 寒地土木研究所 寒地水圏研究グループ 水環境保全チーム	上席研究員 柿沼 孝治
15	さっぽろ自然調査館	代表 渡辺 修
16	東京農業大学キタサンショウウオ研究会	幹事 居馬 颯汰
17	道東のイトウを守る会	会長 神田 房行
18	塘路ネイチャーセンター	センター長 鷺見 祐将
19	特定非営利活動法人 EnVision環境保全事務所	理事長 赤松 里香
20	特定非営利活動法人 くしろ・わっと	理事長 小林 友幸
21	特定非営利活動法人 タンチョウ保護研究グループ	理事長 百瀬 邦和
22	特定非営利活動法人 鶴居タンチョウ元亀村	理事 佐藤 吉人
23	特定非営利活動法人 トラストサルン釧路	理事長 黒澤 信道
24	北海道ウチダザリガニ防除ネットワーク	代表 高橋 克巳
25	北海道標茶高等学校	校長 小森 章史
26	北海道プロフェッショナルフィッシングガイド協会	会長 テディ齋藤
27	ボランティアネットワークチャレンジ隊	代表 佐竹 直子

■オブザーバー(5団体)

(敬称略)

No.	団体/機関名	代表者名
1	釧路商工会議所	会頭 栗林 定正
2	釧路町商工会	会長 土井 茂人
3	標茶町商工会	会長 田中 進
4	弟子屈町商工会	会長 竹森 英彦
5	鶴居村商工会	会長 大津 泰則

■関係行政機関(10機関)

(敬称略)

No.	団体/機関名	代表者名
1	国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部	部長 田村 桂一
2	環境省 釧路自然環境事務所	所長 岡野 隆宏
3	林野庁 北海道森林管理局	局長 吉村 洋
4	北海道 釧路総合振興局	局長 木村 英也
5	北海道教育庁 釧路教育局	局長 泉野 将司
6	釧路市	市長 蝦名 大也
7	釧路町	町長 小松 茂
8	標茶町	町長 佐藤 吉彦
9	弟子屈町	町長 徳永 哲雄
10	鶴居村	村長 大石 正行

釧路湿原自然再生協議会 第13回地域づくり・第39回再生普及小委員会 (R5.12.1)

出席者名簿

■個人(16名)

	No	氏 名	所 属
会場	1	櫻井 一隆	
	2	平間 清	(有)平間ファーム
	3	平岩 誠	カヌーショップひらいわ
	4	中村 研二	釧路公立大学地域経済研究センター 教授 センター長
	5	鈴木 信	一般財団法人 釧路市住宅公社
	6	貞國 利夫	釧路市立博物館
	7	新庄 久志	
	8	高嶋 八千代	
	9	高橋 忠一	
	10	照井 滋晴	特定非営利活動法人環境把握推進ネットワーク-PEG
	11	山本 太郎	一般財団法人北海道河川財団
WEB	12	神田 房行	北方環境研究所所長 (元北海道教育大学副学長)
	13	新庄 興	
	14	川西 亮太	北海道教育大学釧路校 准教授
	15	君塚 孝一	有限会社自然文化創舎
	16	坂井 一浩	八千代エンジニアリング株式会社 北海道営業所

■団体(8団体)

	No	氏 名	所 属
会場	1	小川 清史	釧路川カヌーネットワーク
	2	元岡 直子 (佐藤 英樹)	釧路国際ウェットランドセンター・釧路湿原国立公園連絡協議会 事務局次長 (事務局員)
	3	芳賀 孝朋	釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会 代表幹事
	4	近藤 一燈美	こどもエコクラブくしろ
	5	百瀬 邦和	特定非営利活動法人タンチョウ保護研究グループ 理事長
WEB	6	柿沼 孝治	国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所 水環境保全チーム 上席研究員
	7	小林 恒平	特定非営利活動法人EnVision環境保全事務所
	8	上野 岳	特定非営利活動法人 くしろ・わっと職員

■オブザーバー(2団体)

	No	氏 名	所 属
会場	1	松本 修	標茶町商工会 事務局長
会場	2	豊島 洋樹	弟子屈町商工会 事務局長

■関係行政機関(8機関)

	No	氏 名	所 属
会場	1	菅野 法之	国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部 釧路河川事務所 所長
	2	柳川 智巳	環境省釧路自然環境事務所 国立公園企画官
	3	角田 淳	北海道教育庁 釧路教育局 釧路教育局社会教育指導班 主査
	4	北舘 則隆	北海道 釧路総合振興局 商工労働観光課長
	5	元岡 直子 (佐藤 英樹)	釧路市 環境保全課自然保護担当
WEB	6	南 達彦	林野庁 北海道森林管理局 釧路湿原森林ふれあい推進センター 所長
	7	森末 恵悟	釧路町
	8	河村 晃 (菊池 将平)	標茶町

第4期釧路湿原 自然再生普及行動計画の 取組状況について

再生普及行動計画オフィス

1

目次

1. コロナ禍で得られた知見について
2. 第4期計画期間における重点取組・新規取組
3. 再生普及小委員会の取組
4. 各小委員会での取組

2

1. コロナ禍で得られた知見について

● 広報、企画内容への配慮

- ・ソーシャルディスタンスを保てる人数規模で企画
- ・釧路管内在住者に対象を限定
- ・現地集合、現地解散とし、短時間で実施
- ・会話をせずに楽しめるプログラムを企画
- ・オンラインでの実施、映像資料の活用

● 今後の取組に活かしたい知見

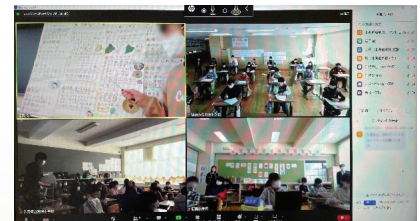
- ・様々な工夫や配慮により、行事や会議の質が向上する
- ・適切な人数規模で行うことで、参加者の理解が深まる
- ・オンラインを活用した行事や会議の有効性
- ・アーカイブ配信、映像資料の活用等、情報共有方法が多様化



「幌呂地区湿原再生」現地見学会



久著呂川自然再生見学ツアー 紹介動画アーカイブ配信



湿原学習オンライン交流会

2. 第4期計画期間における重点取組・新規取組

行動計画項目	オフィスの取組	各小委員会の取組
3-1 市民参加・環境教育とともに		
①湿原を身近に感じる ～人々が湿原とつながる～	<ul style="list-style-type: none"> ・HP掲載情報の充実 ・映像資料の活用 ・図書館との連携 	
②湿原と地域に学ぶ ～学校や地域での学びの幅を広げる～	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した学習支援 ・探求学習、故郷学習との連動 	<ul style="list-style-type: none"> ・釧路湿原の水循環の公開 (水循環小委員会)
③湿原のために行動する ～保全や再生に関わる人・機会を増やす～	<ul style="list-style-type: none"> ・市民講座の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・現地見学会等の実施 ・各小委員会の合同開催 (各小委員会)
3-2 湿原とともに暮らす未来に向けて		<ul style="list-style-type: none"> ・農業従事者との意見交換 ・多様な事例の共有、PR ・カーヌーガイドライン改定・普及 (地域づくり小委員会)

3. 再生普及小委員会の取り組み（令和5年度） 湿原を身近に感じる～人々が湿原とつながる～

◆湿原にふれる機会をひろげる

●ウェブサイトへの情報掲載

- みんなで進める！釧路湿原の自然再生

URL : <https://www.kushiro-wanda.com/>

内容：ワンダグリンド・プロジェクト参加者の活動状況や釧路湿原で行われる行事情報、推進連携チームおよび学校支援ワーキンググループ会合資料等を掲載。

- きづく わかる まるる 釧路湿原

URL : <https://www.kushiro-ee.jp/>

内容：学校教育における湿原の活用事例、事務局による支援内容、教員研修講座の記録等を掲載。



みんなで進める！釧路湿原の自然再生 HP



きづく わかる まるる 釧路湿原 HP

3. 再生普及小委員会の取り組み（令和5年度） 湿原を身近に感じる～人々が湿原とつながる～

◆湿原にふれる機会をひろげる

●メールニュースの配信

- ・月2回、ワンダグリンドの活動状況や釧路湿原で行われる行事情報を配信した。
- ・月1回程度、メールニュースの内容をチラシとして取りまとめたものを施設等各所に郵送し、掲出を依頼した。

毎月無料で発行しています。配信希望受付中。掲示してくれる店舗・会社・施設なども募集中！

第4回 イベント 英語で釧路湿原を楽しむワークショップ

～遠古武遊歩道・遊道から暮ッ丘へ～

英語で釧路湿原の自然を楽しむワークショップです。英語での解説を聞いてみたい方、英語で湿原を解説し発信することに関心のある方興味のある方など、どなたでもご参加ください。

【日時】8月27日（日）10:00～12:00
 【開催場所】遠古武遊歩道
 【集合場所】遠古武オートキャンプ場駐車場→遠古武遊歩道（釧路市郡路町遠古武）
 【参加費】無料
 【定員】10名程度（事前の申込み連絡歓迎！）
 【問い合わせ】新庄久志（釧路国語ウェットランドセンター技術委員会委員長）
 TEL:090-4496-4851
 Email:kushirowetland@icloud.com
 発ワンダグリンドプロジェクト（釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会）の取り組みとして実施します。

☆こちらもご覧ください

イベント 釧路湿原の早朝の鳥観察会

野鳥が活発に動く早朝に、湿原に接し、鳥たちの暮らしを観察します。

【日時】8月6日（土）6:30～9:00 ※雨天中止
 【開催場所】釧路市北斗遺跡ふるさと歴史の広場
 【集合場所】北斗遺跡の朝顔一帯（釧路市北斗6-7）
 【対象】どなたでも（申込み不要）
 【参加費】50円（保険料）
 【集合先/生協】釧路市立博物館→釧路市春舞台1-7
 TEL:0154-41-5809
 E-mail:museum@city.kushiro.lg.jp

☆詳しくはこちらをご覧ください

イベント 遺樹内木道スポットガイド

釧路湿原国立公園のボランティア・レンジャーたちが遺樹内木道の各スポットで、旬の花や湿原のおもしろネタを解説いたします。

【日時】8月19日（土）9:30～11:30 ※雨天中止
 【場所】遺樹内木道（鶴岡村遺樹内）
 【参加費】無料（申込み不要）
 【集合先】遺樹内ビジターセンター
 TEL:0154-65-2323
 【主催】環境省 釧路湿原自然保護官事務所
 遺樹内ビジターセンター 遺樹内木道

募集 日本の国立公園フォトコンテスト2023

令和6年3月16日には、(順)内海国立公園「雲仙天草国立公園」「霧島錦江湾国立公園」の3つの公園が、日本で初めて国立公園として指定されてから90年目の節目を迎えます。そんな国立公園を訪れて、国立公園の物語をぜひ感じていただきたい。そして感じた物語を、写真を通して世界中の方に共有してほしいという思いから、「Sharing Stories ～国立公園誕生90周年記念～」をテーマとし、日本の国立公園フォトコンテスト2023を開催します。

【募集期間】令和5年6月8日（木）～10月28日（木）
 【募集テーマ】Sharing Stories
 ～国立公園誕生90周年記念～

【応募方法】
 「国立公園公式 Instagram（日本語版または英語版のいずれか）」
 「東京メタデータキャンペーン Instagram」をフォローし、募集期間内に指定のハッシュタグをつけてご応募ください。
 撮影に撮影された作品でも応募可能です！
 【問い合わせ先】環境省自然環境局
 国立公園課 国立公園利用推進室（担当：川崎）
 TEL（代）：03-5581-3351
 TEL（直）：03-5521-8274
 【主催】環境省

☆詳しくはこちらをご覧ください

イベント アイヌの自然観～植物編～

アイヌ民族が利用した植物を観察しながら、彼らの自然観と知恵をまなびます。

【日時】9月3日（日）10:00～12:00
 【開催場所】遺樹内ビジターセンター周辺
 【定員】15名
 【参加費】無料
 【申込み/集合先】遺樹内ビジターセンター
 TEL:0154-65-2323

ワンダグリンド☆ニュース チラシ

メール配信希望・掲載に関する問合せ：再生部及行動計画オフィス
 TEL:015456-4648 E-mail:wanda@heco-spc.or.jp

『ワンダグリンド☆ニュース』で紹介しているその他の記事はWEB版でご覧ください

3. 再生普及小委員会の取り組み（令和5年度） 湿原を身近に感じる～人々が湿原とつながる～

◆さまざまな分野の取組みとつながる

●ワンダグリンド・プロジェクトの推進

昨年度の参加団体を対象に、ヒアリング等により活動状況や今後の参加意向を把握し、ホームページに情報を掲載した。

参加団体：56団体・個人

連携校：6校

広報支援：8施設

URL：<https://www.kushiro-wanda.com/projects/>



参加団体紹介ページ

●プロジェクト参加団体と連携した取組

行事出展、施設展示のほか、小学校が行う湿原学習の企画や、学習支援等を参加団体と連携して行った。

《取組内容》

辻野正さん：湿原クラフト体験教室・展示、ジオラマ展示

タクツパさん：展示「アイヌ民族と植物」

長谷泰昌さん：フィールド学習の企画実施

釧路市動物園「タンチョウレスキューの現場から」：パネル展示、フィールド学習支援



「まなとびあ2023」での連携した啓発

3. 再生普及小委員会の取り組み（令和5年度） 湿原を身近に感じる～人々が湿原とつながる～

◆より多くの人に湿原の情報をとどける

●イベントへの出展

●釧路市生涯学習フェスティバル「まなトピア2023」

期間：11月11日(土)、12日(日)

場所：まなぼと幣舞

内容：パネル展示、ワンダグリンド参加団体活動紹介、湿原クラフト体験教室

●くしろエコ・フェア2023

期間：11月19日(日) 10:00～16:00

場所：釧路市中央図書館 7階多目的ホール・展示室

内容：「釧路湿原再生事業地見学会」ポスター展、湿原クラフト「湿原のなかまたち」展



「まなとびあ2023」への出展



「くしろエコ・フェア2023」への出展

3. 再生普及小委員会の取り組み（令和5年度） 湿原を身近に感じる～人々が湿原とつながる～

◆より多くの人に湿原の情報をとどける

●図書館への自然再生協議会関係資料の収蔵

釧路市中央図書館、標茶町図書館、釧路短期大学付属図書館を対象として、令和4年度中に釧路湿原自然再生協議会が発行した資料を収蔵した。



釧路市中央図書館での資料収蔵

●湿原学習に取り組む児童からの発信（予定）

湿原学習に取り組む児童が作成した「研究発表ボード」の展示、釧路市子ども遊学館と連携した発表会を通して、施設来館者への学校の湿原学習の取組、児童がとりまとめた湿原に係る多様な情報を発信する。



釧路町役場での展示（令和4年度 実施例）



釧路市子ども遊学館での発表（令和4年度 実施例）

3. 再生普及小委員会の取り組み（令和5年度） 湿原を身近に感じる～人々が湿原とつながる～

◆教員・指導者が学ぶ機会をひろげる

●教員研修講座の実施

●環境教育の充実

～キタサンショウウオ等希少種保護と脱炭素に向けた開発との共存

実施日：7月27日（木）

参加者：32名（釧路管内の幼稚園から高校までの教職員）

場 所：環境省釧路湿原野生生物保護センター

太陽光発電施設（釧路市鶴野）

釧路町トリトウシ原野太陽光発電所

講 師：野本 和宏氏（釧路市立博物館 学芸員）

共 催：釧路教育研究センター（事務局：釧路市教育委員会）



●フィールドワークショップの実施

●丘から湿原へ～湧水の小さな旅～

実施日：10月28日（土）

参加者：14名

（ワンダグリンダ・プロジェクト2023参加者・再生普及小委員会委員）

場 所：達古武湿原

案内人：新庄 久志 氏（釧路国際ウェットランドセンター技術委員長）



3. 再生普及小委員会の取り組み（令和5年度） 湿原を身近に感じる～人々が湿原とつながる～

◆ 教員・指導者が学ぶ機会をひろげる

● フィールド学習のコーディネート

湿原学習に取り組む学校教員を対象として、以下の取組を通して湿原を活用した授業づくりの支援を行った。

《実施校》

釧路市立中央小学校5年生※、釧路町立別保小学校5年生、釧路町立富原小学校4年生
標茶町立標茶小学校5年生、鶴居村立下幌呂小学校3・4年生※、鶴居村立下幌呂中学校1,2年生
北海道阿寒高校1・2年生※、北海道釧路鶴野支援学校 高等部普通科1年生から3年生

《情報提供》

プログラム案、施設等との調整事項、フィールドの特徴、説明例等の提示

《フィールドでの対応》

フィールドの事前確認（フィールドの特徴、プログラムおよび学習内容等の説明） ※を付した学校では未実施



別保小学校教員への説明（細岡）



富原小学校教員への説明（達古武）



標茶小学校教員への説明（達古武）

3. 再生普及小委員会の取り組み（令和5年度） 湿原を身近に感じる～人々が湿原とつながる～

◆ 学びに関わる人をつなぐ

● 第17回湿原学習のための学校支援ワーキンググループ

日時：7月28日（金） 14：00～16：00

場所：釧路地方合同庁舎4階 第3会議室

参加者：16名（専門家2名、学校教員8名、教育委員会3名、協力団体・施設3名）

議事：①ワーキンググループの取組み報告 ②今後の取組みについて

<主な意見など>

①について

- ・考える余地を与えてもらいながら進めていただき、自分たちでも探し、見つけて、相談しながらやっていく姿が印象的だった。
- ・協力団体とつながっていきながら、やりとりを重ねることで、子どもたちが自分で課題を解決すること、地元の良さや釧路の強みについて知識や愛情を持つということにつながるが、持続可能な形で進めていける方法を模索していくことが課題。
- ・大人が知っている知識を子どもたちに伝える側面と、次の世代の子どもたち同士が交流する場があると良い。
- ・やってきたことを少しずつ蓄積していくと学校内にある資料が増えていく。引き継いでいくことが、必要だと感じる。
- ・この場で交流しながらやっていき、湿原サイエンスフェアで子どもの様子を見てもらうことによって、こうやれば良いということが、今後どんどん高まっていくのではないかなと思っている。良いプロセスができてきたと思う。

②について

- ・持続可能な状況にするために教育委員会もこのWGも進めていかなければならない。
- ・こういう子どもたちを作りたい、こういう人たちを呼びたいということに学校が関わりながらやっていく姿を作っていて欲しい。
- ・緩いやりどりの場がネット上であり、緩いつながりを持ちつつ、やりたい人が集まれるというような、何段階かに分けて行えると良い。

3. 再生普及小委員会の取り組み（令和5年度） 湿原を身近に感じる～人々が湿原とつながる～

- ◆ 学びに関わる人をつなぐ
- ◆ 湿原の多面的な価値の学びにむけて

● 協力施設、団体、学校と連携した湿原学習の推進

地域の様々な主体と連携した湿原学習の支援体制づくりを進めるため、以下の団体に対して、フィールド学習実施時のレクチャー、学習のとりまとめ時および発表会での助言、発表の場の提供等の協力依頼を行った。多くの主体より了承を得て、フィールド学習の支援を行った。今後、児童への助言や発表の場づくりを共同して実施する（予定）。



標茶小学校5年生への解説（達古武）

（順不同）

- ・国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部 治水課※
 - ・林野庁 北海道森林管理局 釧路湿原森林ふれあい推進センター
 - ・釧路市動物園※
 - ・釧路市立博物館
 - ・釧路湿原国立公園連絡協議会
 - ・（公財）日本鳥類保護連盟釧路支部※
 - ・釧路市こども遊学館
 - ・北海道教育大学釧路校 境教授
 - ・標茶町図書館
 - ・釧路市教育委員会マリモ研究室
- ※を付した主体と連携した取組を実施



発表会での助言（令和4年度実施例）

3. 再生普及小委員会の取り組み（令和5年度） 湿原を身近に感じる～人々が湿原とつながる～

- ◆ 新たな活動・参加機会づくりをみちびく

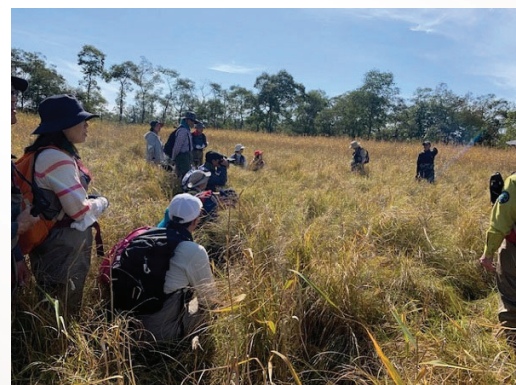
● 市民講座の実施

- ・湿原と地域を学び、湿原を体験して、湿原の仕組みを知る！
釧路湿原の『すごい！』を体験しよう

日 時：10月14日（土）9:30～15:00

参加者：15名

講 師：新庄 久志 氏（釧路国際ウェットランドセンター技術委員長）



3. 再生普及小委員会の取り組み（令和5年度） 湿原を身近に感じる～人々が湿原とつながる～

●第17回再生普及推進のための連携チーム

日時：8月29日（火） 10：00～12：00

場所：釧路地方合同庁舎4階 第3会議室

参加者：12名

議事：①小委員会事務局が実施する市民参加の取組みについて
②コロナ禍における取組みの評価
③再生普及行動計画の進捗評価について

<主な意見など>

①について

- ・ヒグマ対策について、各事務局における判断基準や対応の根拠等、組織間で情報を共有できる機会が必要。
- ・「久著呂川自然再生見学ツアー」は対策の効果がとても分かり易く、ぜひ子どもたちに参加してもらいたい。

②について

- ・換気や人数制限、ソーシャルディスタンス等感染予防対策を学んだことは、コロナ禍に関わらず今後新たな非常事態が起きた際の参考になる。
- ・参加人数を制限することで、参加者がゆっくり対象物を鑑賞でき、主催者の説明を集中して聞いてもらえる等プログラム全体の質が上がった。

③について

- ・上流部の農業従事者による湿原の生態系に配慮した営農について広報することは非常に重要なプログラムである。
- ・今後は下流部の漁業従事者による湿原を意識した漁業活動についても紹介出来ると良い。

15

4. 各小委員会の取り組み（令和5年度） 湿原と地域に学ぶ ～学校や地域での学びの幅を広げる～

◆湿原の多面的な価値の学びにむけて

●明らかとなった知見の公開（水循環小委員会）

釧路湿原の水循環（技術資料）をとりまとめ、公開した。現地見学会においては、得られた知見を体感できるフィールドに赴き、参加者に理解を促している。



16

4. 各小委員会の取り組み（令和5年度）

湿原のために行動する ～保全や再生に関わる人・機会を増やす～

◆地域の人々が湿原を見守る

●現地見学会等の開催（各小委員会）

各小委員が主催し、再生事業地の現地見学会、湿原の仕組み等を体感するフィールド行事を実施。（各行事の詳細、アンケート回答は別添資料1-1、1-2を参照）

開催日	行事名	参加者	主催
7月22日	「幌呂地区湿原再生」現地見学会	17名	湿原再生小委員会事務局
8月3日	久著呂川自然再生見学ツアー	13名	土砂流入小委員会事務局
9月2日	「釧路湿原旧川復元」現地見学会	19名	河川環境再生小委員会事務局
10月14日	市民講座「湿原と地域を学び、湿原を体感して、湿原のしくみを知る！」	15名	再生普及行動計画オフィス
11月3日	「水・物質循環」現地見学会	17名	水循環小委員会事務局



幌呂地区現地見学会



久著呂川自然再生見学ツアー



釧路湿原旧川復元現地見学会



水・物質循環現地見学会

4. 各小委員会の取り組み（令和5年度）

湿原とともに暮らす未来にむけて（地域づくり小委員会）

◆一次産業とのつながりをひろげる

●農業従事者との意見交換

◆観光分野との連携をすすめる

●多様な事例の共有、PR

◆湿原のワイズ・ユースに向けたルールの普及

●カヌーガイドラインの改定・普及

The image shows a collage of materials related to the 'Canoeing Guidelines' project. It includes a brochure titled '釧路川 自然体験へようこそ!' (Kamoi River Welcome to Nature Experience!), a map of the Kamoi River area, and a detailed 'カヌーガイドライン改訂版' (Canoeing Guidelines Revised Edition) which lists rules for canoeing on the river, such as staying on the right bank, avoiding narrow channels, and respecting the environment. A QR code is also present for more information.

カヌーガイドライン改訂版

小委員会事務局が実施する市民参加の取組みの実施状況

7月から11月の期間中、自然再生協議会各小委員会が実施した市民参加の取組みは以下のとおり。

開催日	イベント名	主催
7月22日(土)	「幌呂地区湿原再生」現地見学会	湿原再生小委員会事務局 (釧路開発建設部治水課)
8月3日(木)	久著呂川自然再生見学ツアー	土砂流入小委員会事務局 (釧路建設管理部治水課)
9月2日(土)	茅沼地区旧川復元現地見学会	河川環境再生小委員会事務局 (釧路開発建設部治水課)
9月23日(土)	企業との協働による広葉樹の森林づくり	森林再生小委員会事務局 (釧路湿原森林ふれあい推進センター)
9月27日(水)	第2回「雷別ドングリ倶楽部」	森林再生小委員会事務局 (釧路湿原森林ふれあい推進センター)
10月14日(土)	市民講座「釧路湿原を学び、釧路湿原を歩き、地域の歴史に触れる！ 釧路湿原の『すごい！』を体験しよう」	再生普及小委員会事務局 (環境省釧路自然環境事務所)
11月3日(祝・金)	「水・物質循環」現地見学会	水循環小委員会事務局 (釧路開発建設部治水課)

「幌呂地区自然再生」現地見学会 実施報告書

日時：令和5年7月22日（土） 8：30～15：40

場所：阿寒郡鶴居村字下幌呂

行事名：「幌呂地区湿原再生」現地見学会

主催者：湿原再生小委員会事務局（釧路開発建設部治水課）

参加者人数：17名

取組の概要

釧路湿原では、過去に損なわれた湿原環境を取り戻す取組である「釧路湿原自然再生事業」が行われています。その一環である、未利用地を湿原に再生する鶴居村幌呂地区の湿原再生現場において、地域住民の皆さんに事業実施後の植生の見学や、泥炭の観察、湿原を代表する植物であるヨシの移植体験、ハンノキ環状剥皮（巻枯らし）に参加していただき、自然再生事業への理解を深めていただきました。



泥炭の観察

泥炭がいかにより多くの水分を含むことができるのか、実際にさわって重さを確認。



ヨシの移植 穴を掘りヨシの苗を移植しました。泥炭の地面は植物が分解されず堆積して圧縮され、穴を掘る作業も大変です。



環状剥皮 増加したハンノキを枯死させるために樹皮を剥ぎました。なかなかの力仕事です。

主催者の感想

今年で11回目となった「幌呂地区湿原再生」現地見学会は、コロナ渦で半日行程であった昨年より参加人数が増え、午後には猛禽類医学研究所のバックヤードツアーにも参加することができました。参加者からは「自然再生の取り組み場所に植生が戻ってきているのがわかった」「丁寧な説明を受け、楽しく有意義でした」などの感想をいただきました。

久著呂川自然再生見学ツアー 実施報告書

日時：令和5年8月3日（木） 9：00～16：00

場所：久著呂川の土砂流入対策箇所等（鶴居村・標茶町）

行事名：第9回久著呂川自然再生 見学ツアー

主催者：釧路建設管理部、釧路開発建設部

参加者人数：13名（内9名が初参加）

取組の概要

久著呂川の上流、中流、下流を順番に巡り、自然再生の取り組み（久著呂川の土砂対策）を学ぶ“久著呂川自然再生見学ツアー”を開催しました。

久著呂川自然再生見学ツアーは、釧路湿原への土砂流入対策の取組や水辺環境の回復状況について、見学・体験するツアーです。

上流域では、魚類や水生昆虫を観察しながら自然の状態に近い河川の特徴を理解して頂きました。

河道の安定化対策を実施した区間では、川に入って箱メガネ、タモ網を用いて川の中を泳ぐ魚類の観察、底生生物の捕獲を行う等、水辺環境の回復状況を体験して頂きました。

その後、水辺林・緩衝帯の予定地、河川沿いの土砂調整地、排水路合流部沈砂池、湿原流入部の土砂調整地の整備状況、土砂の堆積状況を見学しました。



主催者の感想

上流域の未改修の水辺環境の特徴を学んで頂き、その後、中流域における取組の説明を行い、魚類などの観察や底生生物の捕獲等を体験して頂きました。このことで、対策を実施したことによる効果を感じて頂きました。

移動中の車内や、見学箇所の説明を通して、久著呂川の土砂流入対策について理解を深めて頂きました。

参加者のアンケート結果より、見学ツアーの満足度が高く、今後も釧路湿原の保全や再生活動に関わりたいという意見が多いことが分かりました。

見学ツアーは、久著呂川の土砂対策事業の普及啓発を行う上で、重要な取り組みの一つであると考えています。

「茅沼地区旧川復元」現地見学会 実施報告書

日時：令和5年9月2日（土） 8：00～15：40

場所：川上郡標茶町茅沼地区・ヌマオロ地区

行事名：茅沼地区「旧川復元現地見学会」

主催者：釧路湿原自然再生協議会 河川環境再生小委員会事務局（釧路開発建設部治水課）

参加者人数：19名

取組の概要

自然再生事業を広く一般市民に理解してもらうため、「釧路湿原旧川復元現地見学会」を開催しました。今年度は7艇のカナディアンカヌー（3人乗）と1艇のEボート（10人乗）で、それぞれカヌーガイドの案内により、標茶町下オソベツをスタートし標茶町茅沼まで釧路川を下りました。途中、直線河道と復元河道の切替部で下船し、湿原の植生、土砂の堆積状況などから、湿原らしい環境が戻りつつあることを確認し、旧川復元の効果を実感していただきました。

午後からはヌマオロ地区で胴付長靴を着用して川に入り、カワシンジュガイや魚類等の調査を行いました。希少な生物の生息状況や旧川蛇行復元に向けた取り組みについての説明を受け、実際に生物を確認することで、理解を深めていただきました。



小雨の中、悠々とカヌーを漕ぐ参加者の皆さん。湿原の動植物を観察しながら、約5.5キロのルートを力強く漕ぎきりました。

河道切替部で植生の回復状況について説明を行いました。



ヌマオロ川では箱メガネを使い、魚類等を観察。



主催者の感想

当日はあいにく雨交じりの天候となりましたが、参加者全員無事にカヌーを漕ぎきり、途中オジロワシなどの希少な野生動物も見ることができました。また、各見学地点での調査も参加者から非常に好評で、「旧川復元が一步ずつ着実に実現されていると実感した」「絶滅危惧種のカワシンジュガイについて初めて知り、実際に観察できてよかった」などの感想をいただきました。

企業との協働による広葉樹の森林づくり 実施報告書

日時：令和5年9月23日（土）9：00～12：00

場所：雷別地区自然再生事業地（標茶町雷別／根釧西部森林管理署 293 林班）

行事名：企業との協働による広葉樹の森林づくり

主催者：札幌市に支店を置く企業、釧路湿原森林ふれあい推進センター（協働）

参加者人数：28名

取組の概要

この活動は、札幌市に支店を置く企業が、社会貢献活動の一環として、平成29年度から当センターと協働し、雷別地区自然再生事業地で行っている自然再生の取組みで、今回で第6回目の開催となります。

当日は、雷別地区自然再生事業地の笹地10で、郷土樹種である広葉樹4種（ミズナラ、ヤチダモ、ハルニレ、カツラ）計140本を植樹し、併せて、植栽木をエゾシカや野ウサギの食害から守るため、保護管（ツリーシェルター）の被覆を行いました。

当日は快晴に恵まれ、カラッとした爽やかな秋空のもと、参加者は植樹班と保護管組立班に分かれ、当センター職員による現地案内などを受けながら森林づくり活動に取り組みました。経験者が初参加の方に指導するなどし、手際良く作業を進められ、順調に森林づくり活動を終えることが出来ました。



植樹の様子



保護管組立ての様子



保護管設置の様子

主催者の感想

今回の活動は、様々な制限が解除されたことから、前年度の倍以上となる28名の参加がありました。当日は、快適な天候のもと、心地よい汗をかかれ作業が順調に実施できたところです。

参加者からは、「天候が爽やかで、気持ちよく作業が出来良かった」「これまでの植樹の成長が現地を見て実感出来た」「楽しく植樹が出来た。めったに来ることがない森に触れることが出来た」等の感想があり、この活動に満足され、森林再生への理解をより深めていただけたようです。

企業側の社会貢献活動への意欲は高く、「継続が大事だと考えており、引き続きこの活動を続けていきたい」との心強い発言もいただき、来年度以降もセンターとして協力していきたいと考えております。

第2回「雷別ドングリ倶楽部」 実施報告書

日時：令和5年9月27日（水）9：00～16：00

場所：雷別地区自然再生事業地（標茶町雷別／根釧西部森林管理署 293 林班）

行事名：第2回「雷別ドングリ倶楽部」

主催者：雷別ドングリ倶楽部、釧路湿原森林ふれあい推進センター（協働）

参加者人数：15名

取組の概要

「雷別ドングリ倶楽部」は、高齢級のトドマツ人工林が気象害によって立ち枯れし、笹地となった箇所が広がっている雷別国有林をフィールドとして、平成19年7月から当センターと協働で森林再生（自然再生）等に取り組んでいるボランティアの方々の集まりです。

今回の活動は、雷別地区自然再生事業地の笹地10で、郷土樹種である広葉樹4種（ミズナラ、ヤチダモ、ハルニレ、カツラ）計60本の植樹と共に、植栽木をエゾシカや野ウサギの食害から守るため、全ての構成部品が土に帰る生分解性素材で作られた保護管（ツリーシェルター）で被覆しました。

なお、生分解性保護管の設置は当事業地初の取組となり、今後、経過観察を実施していきます。



植樹の様子



生分解性保護管（ツリーシェルター）設置の様子



主催者の感想

春の植樹活動はヒグマ痕跡確認により中止したため、会としては、今年度初めての植樹活動となりました。

皆さん手慣れた様子で作業を進められ、苗木は1時間程で植え終わりましたが、笹の根が密集していて植穴を掘るのに苦労されたようです。苗木植栽後は、今年度からの新しい取組として、生分解性保護管の設置を行いました。従来の保護管と勝手が違うので戸惑った様子も見られましたが、徐々に慣れ、順調に作業を進められていました。

参加者からは、「初参加の人も含めてチームワーク良く楽しく作業ができた」「森林再生に少しでも協力でき、とても満足」「生分解性保護管の取り付けは初めてだったが成果が楽しみ」等の感想があり、この活動に満足され、森林再生の取組への意欲をより高めていただけたようです。

今後も「雷別ドングリ倶楽部」と協働し、活動を継続していきたいと考えております。

市民講座 実施報告書

日時：令和5年10月14日（土） 9：30～15：00

場所：キラコタン岬

行事名：市民講座「湿原と地域を学び、湿原を体験して、湿原のしくみを知る！
釧路湿原の『すごい！』を体験しよう」はじめての釧路湿原

主催者：再生普及小委員会事務局（環境省釧路自然環境事務所）

参加者人数：15名

取組の概要

一般市民の方に釧路湿原の価値や魅力を知っていただく機会として開催しており、今年度は、釧路湿原の聖地キラコタン岬を訪問しました。移動のバス車中では、湿原と地域の関りや再生事業について、丘陵地では、間近に炭焼き跡や堅穴住居後を観察しながら地域の産業や歴史について、展望地では流れる水など湿原の仕組みについて学びました。

さらには展望地から望む、普段は立ち入る事の出来ない湿原内に立ち入り湿原の「すごい」を体験しました。



主催者の感想

今年度も、募集人数を越える応募がありました。参加者は、釧路湿原自然再生の歴史を振り返りながら、釧路湿原の奥深くへと入り、原生的な湿原の魅力を五感で味わいました。参加した市民の皆さまが、守りたい釧路湿原を肌身でイメージし、周囲へ伝えられるようになったことは意義深いです。本講座の記録は、釧路湿原の魅力を自然再生活動とともに効果的に発信できる材料として、自然体験ツアーガイドやアクティビティ事業者が活用できる可能性もあります。今後も湿原の様々なスポットの魅力ストーリーとして抽出し発信できればと考えております。

「水・物質循環」現地見学会 実施報告書

日時：令和5年11月3日（祝・金） 8：30～15：30

場所：阿寒郡鶴居村キラコタン岬、川上郡標茶町コッタロ湿原、二本松地区

行事名：「水・物質循環」現地見学会

主催者：釧路湿原自然再生協議会 水循環小委員会事務局（釧路開発建設部治水課）

参加者人数：17名

取組の概要

釧路湿原が形成し維持される仕組みについて、地域住民に学んでいただく「水・物質循環」現地見学会を開催しました。

午前中はバス内から新釧路川右岸堤防を見学し、中津川委員長から釧路湿原の水・物質循環の仕組みと、事務局から釧路湿原の治水事業について解説を行いました。堤防周辺ではエゾシカの群れや野鳥、湿原植生などを間近に見ることができ、皆さん車窓に釘付けでした。その後、釧路湿原の北に位置するキラコタン岬で、約5kmの遊歩道を歩きながら、湿原に流れ込む湧水や植生などを見学し、釧路湿原の地質構造や水の循環、土砂の流入について説明を行いました。キラコタン岬は、天然記念物の指定地域及び釧路湿原国立公園の特別保護地区に区分され、立ち入りには許可が必要であるため、参加者の皆さんには貴重な体験となりました。

午後はコッタロ湿原でUAVによる上空からの映像を見学し、衛星画像による解析結果とともに、ハンノキ林の分布状況の変化について解説を行いました。また、河川沿いの二本松地区露頭では、むき出しになった地層を見学し、釧路湿原の成り立ちについて学習しました。寒空の下、参加者の皆さんは熱心に説明に耳を傾けていました。



キラコタン岬から湿原深部を展望。



UAVによる湿原上空からの映像を体験。



二本松地区露頭では、地層の形状から湿原の成り立ちを説明。

主催者の感想

当日は風が強かったものの、長い遊歩道を歩いた先のキラコタン岬では、湿原深部の壮大な景色を見渡すことができました。参加者の皆さんからは、「釧路湿原の水の動きがよくわかった」「地質学的な湿原の成り立ちの説明がわかりやすかった」「ドローンを使用した湿原のライブ映像が感動した」など、たくさんのお褒めの言葉をいただき、大変充実した見学会となりました。

参加者アンケート集計結果

- アンケート配布行事数：7 行事
- アンケート回収数：104 名分

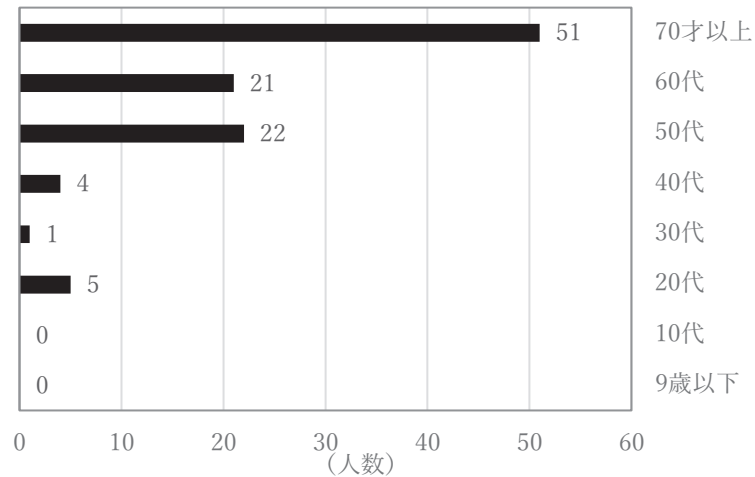
※行事名称の略称は以下のとおり

- 幌呂見学会：幌呂地区湿原再生現地見学会
- 茅沼見学会：茅沼地区旧川復元現地見学会
- 雷別ドングリ：第2回「雷別ドングリ倶楽部」
- 水循環見学会：水・物質循環現地見学会
- 久著呂見学会：久著呂川自然再生見学ツアー
- 企業協働：企業との協働による広葉樹の森林づくり
- 市民講座：釧路湿原の「すごい！」を体験しよう

設問 1. あなたの年齢を教えてください（選択式）

○参加者の年代（左表：各行事別の集計値、右図：回答項目別の7行事合計値（単位：人）以下同）

参加 行事 年齢	幌呂 見学会	久著呂 見学会	茅沼 見学会	企業 協働	雷別 ドングリ	市民 講座	水循環 見学会
70才以上	12	7	12	0	13	1	6
60代	2	5	4	1	1	3	5
50代	0	1	0	7	0	9	5
40代	0	0	0	1	0	2	1
30代	1	0	0	0	0	0	0
20代	2	0	0	3	0	0	0
10代	0	0	0	0	0	0	0
9歳以下	0	0	0	0	0	0	0
回答者数	17	13	16	12	14	15	17

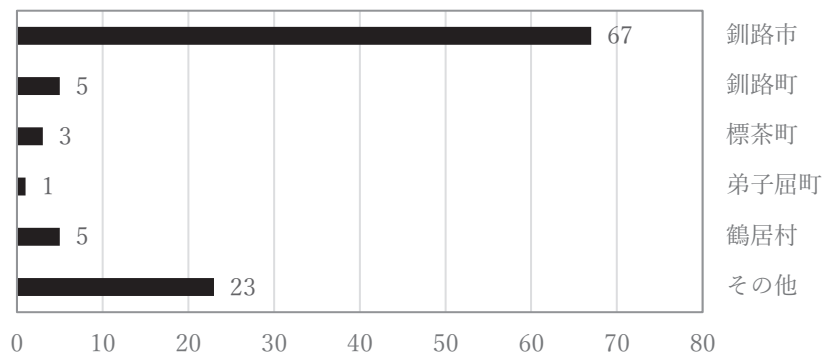


設問2. あなたのお住まいを教えてください（選択・記入式）

参加者の居住地

参加 行事 居住地	幌呂 見学会	久著呂 見学会	茅沼 見学会	企業 協働	雷別 ドングリ	市民 講座	水循環 見学会
釧路市	12	4	11	0	12	13	15
釧路町	0	0	1	0	2	0	2
標茶町	0	2	0	0	0	1	0
弟子屈町	0	0	0	0	0	1	0
鶴居村	2	2	1	0	0	0	0
その他	3	5	3	12	0	0	0

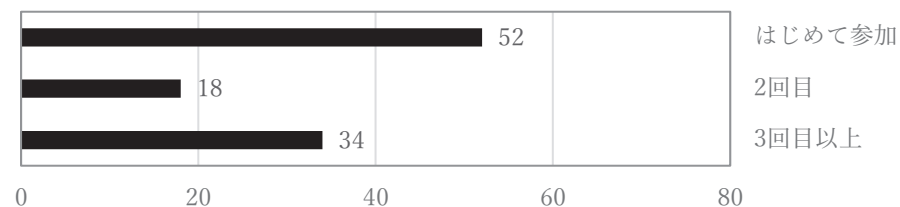
※その他内訳：札幌市（11）、倶知安町（1）、千葉県（5）、栃木県（4）
東京都（1）、神奈川県（1）



設問3. 今回参加された行事への参加回数を教えてください（選択式）

○当該行事への参加歴（各行事集計値）

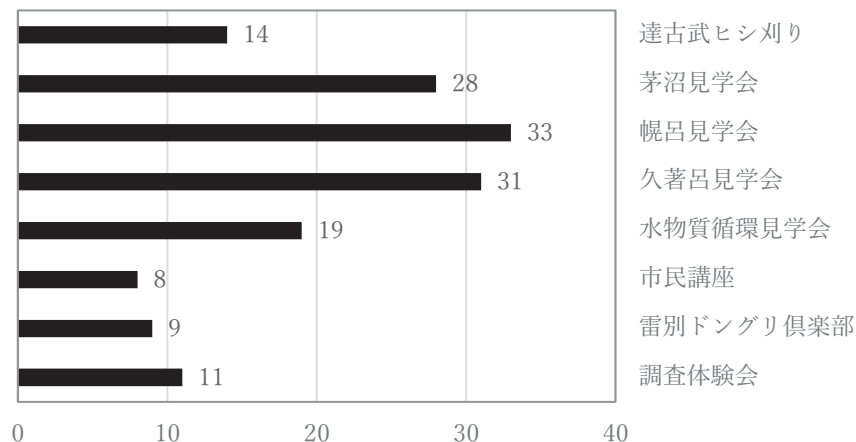
参加 行事 参加歴	幌呂 見学会	久著呂 見学会	茅沼 見学会	企業 協働	雷別 ドングリ	市民 講座	水循環 見学会
はじめて	5	9	3	7	1	15	12
2回目	4	3	8	2	0	0	1
3回目以上	8	1	5	3	13	0	4



設問4. 自然再生協議会が実施する（今回参加した行事以外の）行事に参加したことがありますか（選択式・複数回答）

○他行事への参加経験

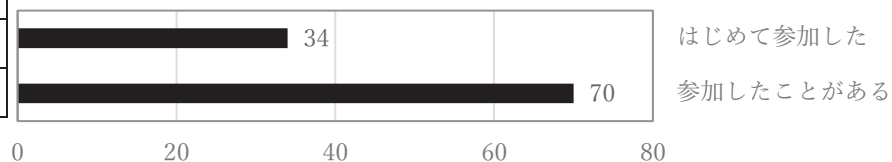
参加経験がある行事	参加行事 幌呂 見学会	久著呂 見学会	茅沼 見学会	企業 協働	雷別 ドングリ	市民 講座	水循環 見学会
達古武ヒシ刈り	4	0	3	0	0	2	5
茅沼見学会	13	3		0	7	0	5
幌呂見学会		7	13	0	4	0	9
久著呂見学会	9		10	0	3	1	8
水物質循環見学会	7	2	5	0	5	0	
市民講座	0	1	1	0	2		4
雷別ドングリ倶楽部	4	0	3	0		0	2
調査体験会	2	0	3	0	2	1	3



《参考》設問3. 4. の回答結果より、【釧路湿原自然再生協議会が実施する行事への参加経験】を集計

○自然再生協議会主催行事への参加経験

参加歴	参加行事 幌呂 見学会	久著呂 見学会	茅沼 見学会	企業 協働	雷別 ドングリ	市民 講座	水循環 見学会
はじめて参加した	3	3	3	7	3	11	4
参加したことがある	14	10	13	5	11	4	13

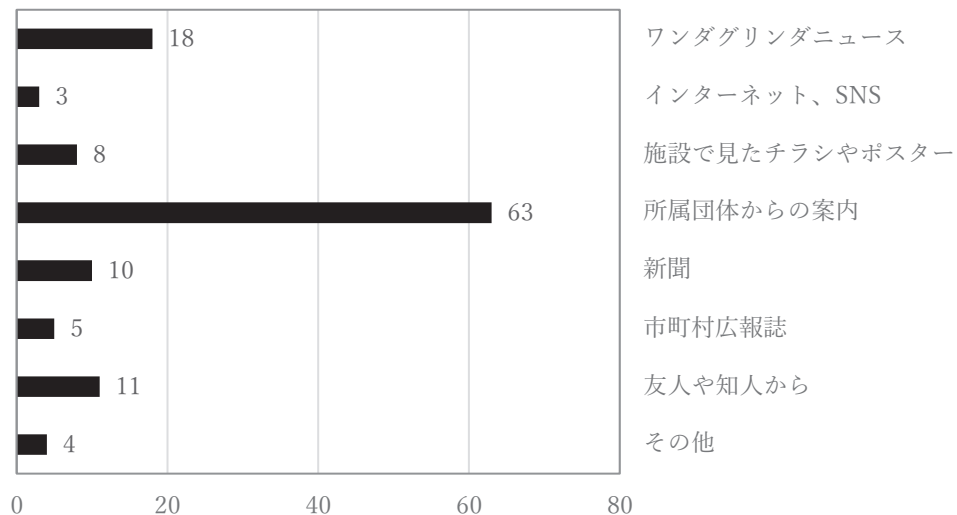


設問5. この行事をどのようにして知りましたか（選択・記入式・複数回答）

○参加した行事を知ったきっかけ

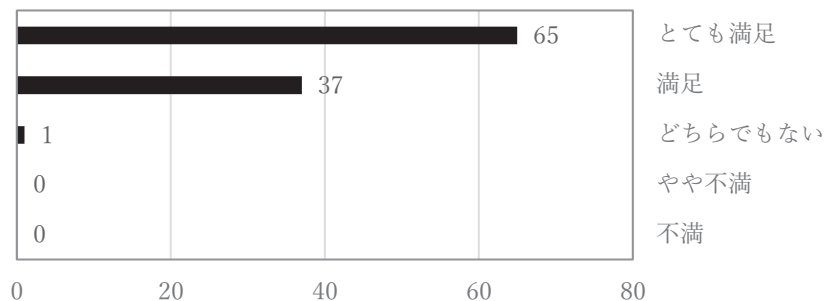
参加行事 広報媒体	幌呂 見学会	久著呂 見学会	茅沼 見学会	企業 協働	雷別 ドングリ	市民 講座	水循環 見学会
ワンダグリダニュース	6	5	4	0	2	0	1
インターネット、SNS	0	0	0	0	0	3	0
施設で見たチラシやポスター	0	0	1	0	0	7	0
所属団体からの案内	12	4	12	12	10	2	11
新聞	3	4	2	0	0	0	1
市町村の広報誌	1	0	1	0	1	1	1
友人や知人から	2	1	1	0	1	2	4
その他	2	0	0	0	0	2	0

※その他内訳：主催からの案内（2）、イベント参加時の案内（2）



設問6. この行事に参加したご感想をお聞かせください（選択式）

参加行事 満足度	幌呂 見学会	久著呂 見学会	茅沼 見学会	企業 協働	雷別 ドングリ	市民 講座	水循環 見学会
とても満足	8	5	11	6	7	14	14
満足	9	7	5	6	6	1	3
どちらでもない	0	0	0	0	1	0	0
やや不満	0	0	0	0	0	0	0
不満	0	0	0	0	0	0	0



その理由をご記入ください（設問6つづき、自由記載）

■幌呂地区湿原再生現地見学会 参加者回答

- ・説明が親切で分かり易い
- ・自然再生の現場を見ることができたから
- ・懇切丁寧におしえてくれる、わかりやすい
- ・何年か前に植えたヨシが大きく育っていた
- ・行程がゆっくり、ていねいな説明（花、魚、泥炭、ハンノキ）
- ・移植したよしが元気に成長していたのがうれしかった
- ・親切な説明が良かった
- ・実際に湿原に入って、作業ができた。

■茅沼地区旧川復元現地見学会 参加者回答

- ・カワシンジュガイがレッド危惧種であることなど知らない事を教えてもらったこと
- ・初めて訪れる自然豊かな場所に行く事ができる。人と自然の関係の知識が豊かになる。
- ・報道でしか知らなかった旧川復元を現地で見学することが、ようやく実現！しかもカヌーで…復元箇所において確実に復元した草花なども知れてよかった。「ヤナギタコウギ」など温根内45番に咲いてるとの事、尋ねてみたいと思います。
- ・ホントに乗れた事
- ・時間的に余裕があった
- ・カヌー体験
- ・現地2箇所の事業説明に大型写真を使い、より理解が出来ました
- ・はじめて釧路川をパドルでこぎながら下った事。私達の知らない所で自然の再生にとりくんでいる事をあらためて知った事
- ・ヌマオロ川の再生現場の様子を見せてもらいたかったです
- ・再生後の湿地がどうなっているか毎回知れるのが良い
- ・カヌーも釧路川下りも初めてで、胴長着用でのカワシンジュガイ探しも楽しかったです。
- ・湿原植生のこと土砂堆積状況の説明と共に本物実物を見たので旧川復元が一步步着実に実現されていると実感しました
- ・昼食タイムをもう少し早く切り上げて、茅沼のチョウの森を散策すれば良かった。きのこの会の人達は通り過ぎた（多くの人）すれ違ったところに山伏茸がありました
とてもおいしかったです。

■企業との協働による広葉樹の森林づくり 参加者回答

- ・継続することが大切だと感じたこと
- ・植樹活動にはたくさんの人手が必要なことを知りました。来年も参加したいと思います。
- ・人生初の植樹だったが、説明が分かりやすく、しっかりと植樹できたので、非常に達成感があったから。
- ・天候が良く、有意義だった。
- ・ふだん、あまり行かない土地に行けた事
- ・充実した内容だった
- ・普段、自然に触れ合う機会がないから

■第2回「雷別ドングリ倶楽部」 参加者回答

- ・森林が地球温暖化を防いでいることを、お話を聞くことにより改めて確信した
- ・楽しく作業できました
- ・楽しく参加、作業が出来ました！
- ・釧路湿原・自然環境の維持にほんの少しでもお手伝い出来ること
- ・森林再生に少しでも協力出来たこと
- ・植林に参加したこと
- ・自然を大切に出来たこと
- ・初めて参加の人も含めてチームワークよく楽しく仕事が出来ました。又職員のお二人のていねいな気使いありがとうございました
- ・生分解性保護管の取付けは初回であったが成果が楽しみである

■市民講座 参加者回答

- ・先生の説明の仕方がわかりやすく、楽しくて面白くて、良かったのと、知らないことがたくさん知れたので参加して本当に良かったです。
- ・初めての体験もとても感動しましたし、湿原に関する知識、とてもわかりやすく説明してくださいました
- ・講師の新庄さんの笑顔と楽しいお話を聞けたので！！
- ・湿原の整備されていないところに入れるのが素晴らしい。
- ・大好きな湿原の奥の奥に行けただけでなく、歴史や植物の生態などあらゆる釧路湿原を教えていただいてとっても楽しかった。安全に安心して参加できたことも満足です。
- ・湿原の中を実際に歩けた点。ふわふわでぬかるんでいるのが面白かったです。
- ・湿原の普段行けないところに行けたこと。
- ・湿原の体感フワフワ。尾根の背色が左右で違う。
- ・自然の素晴らしさを実感できました。
- ・体験したこと全てが楽しく学びが多く充実した1日でした。
- ・普段入れない湿原に実際に足を踏み入れられた為。
- ・説明がわかりやすく勉強になる事が多かった。

■水・物質循環見学会

- ・内容もりだくさんで、ふだん入れない所も行け、大変ためになりました。またお願いします。
- ・未知のことが情報として知ることができました。釧路にいても湿原のこと理解していないことが多かったです。
- ・この季節に来た事が無く、キラコタンでは「オオアワダチソウ」や「ヒメジョオン」が未だ咲いていたり、ドローンでの撮影も興味深かったです。
- ・それぞれの見学場所の現場。これからの展望等、知りたいと思います。
- ・ドローンによる映像をみれた事。
- ・普段立ち入れない場所を見学させて頂き良かったです。資料がとても詳しく勉強になりました。
- ・現地、スタッフどれを取っても今までで一番すばらしい見学会でした。湿原の現状、これからの課題、大変良く理解できました。
- ・初めて体験することや、知らなかったことが多く、興味深かったです。
- ・地層の話を知ったので。
- ・いろいろな専門家の方に説明していただき、たいへん勉強になりました。また、美しい景色を楽しむことができました。
- ・釧路湿原の水の動きが良くわかりました。湿原を守っていくことがいかに重要なことなのか理解できた。
- ・釧路湿原と水との関係、再生に向けた取組について学ぶことが出来た。
- ・釧路に住んで50年以上、初めて湿原の奥を歩きました。説明ありがとうございました。大きなラミネートで見やすかった。
- ・横堤をはじめて知る。実際に見学し、洪水を防ぐための役割を知る。キラコタン岬ではしっかり止まってる給水タイムがほしかった。

設問7. この行事の中で最も印象が深かったことを教えてください（自由記載）

■幌呂見学会 参加者回答

- ・お天気が良かったこと。ヨシ移植の時間が短く、気が付いたらビリになってあわてた（緊張し泥にはまってコケた）。ハンノキ皮むき、実が丈夫な木を選び剥げない、皆さんに手伝ってもらい再びドンジリで恥ずかしいが満足でした。
- ・猛禽類医学研究所が楽しみです
- ・ヨシ苗植え
- ・主催者側のサポート体制
- ・ハンノキの環状剥皮が大変重労働だった ヒラ茸みつけたのはうれしかった
- ・ヨシの移植、ハンノキの環状にはぐ事、湿原の魚類
- ・ハンノキの皮剥ぎ作業が大変だった 選ぶ木を間違えたみたいだ 小さなつづりでなく大きなつづりの方が良かった
- ・実際に湿原に入って植物などを観察したこと
- ・ハンノキの皮はぎ
- ・再生場所に植生がもどってきているのがわかったこと
- ・現地説明を受けながら楽しく有意義でした
- ・泥炭観察、歴史を感じる
- ・湿原の中に魚が数多く見られた
- ・泥炭観察

■久著呂川自然再生見学ツアー 参加者回答

- ・湿原を守るため色々な仕組み、取り組みがわかり、印象的でした。
- ・やはり川底の観察ができたのは貴重な体験でした。
- ・全て！
- ・中流域の河床低下がショックだった。スタッフの知識の豊富さが印象的でした。
- ・川に入って魚と虫などを見たこと
- ・見学地点2、4～5mも水位が下がって、原状何も対策をしないとこうなるとよく分かる所でした
- ・胴長、水中メガネ
- ・タモで水中生物をすくって観察したこと。
- ・川にカジカがいるなんて、来て良かった。カマキリやキリギリスに金虫がいることにビックリ。来て良かった。胴長を履いたり、人生最高でした。
- ・川の蛇行の様子を見る
- ・川の中に入ること

■茅沼地区旧川復元現地見学会 参加者回答

- ・地味で大変な自然再生に取り組んでる事に。
- ・カヌーによる蛇行河川体験をとうして、一度壊した自然を回復させる為には、長い年月が必要ということを改めて認識させられました。
- ・やっぱりカヌーがすばらしい。ヌマホロ川を初めて知った。
- ・ヌマオロ川、カワシンジュガイについて初めて知る名前でした。旧川復元により貴重なこの貝の生息環境がより良くなりますように…地道な仕事ですが心から応援します。「北海道 水辺の生き物の不思議」川井唯史・中村太士編 北海道新聞社、本の紹介がありましたので読みました。
- ・カワシンジュガイ類 採集（初めて知りました）
- ・カワシンジュガイがヤマメのエラに寄生して成長するという事でした。なんでヤマメなんでしょうね、すごいと思いました。又河川を濾過している事、大事にしたいと思いました ありがとうございます。
- ・ヌマオロ川にて箱メガネに胴長でカワシンジュガイ探しはおもしろく、楽しく、印象に残りました。
- ・オジロワシ・カワセミを見た事。カワシンジュガイを箱メガネで探した事（8コとれたのに驚きました）
- ・五十石から茅沼までのコースはあまり利用されていないコースと聞きました。野鳥が多く見られて良かったです。暑い中準備などお疲れ様でした。

■企業との協働による広葉樹の森林づくり 参加者回答

- ・単に植樹ではなく、それまでの準備作業が沢山あること認識しました。釧路湿原森林ふれあい推進センター様の事前準備に感謝します。ありがとうございました。
- ・植樹
- ・森林を整備するためには、長い年月がかかること、ただ植えるだけでなく、動物対策のカバーなどの対策が必要なことを身を持って経験できました。
- ・植林事業の大変さを実感しました。
- ・植樹後の達成感

- ・釧路川を下りながら自然にふれる事ができる。今回もヤマセミやオジロワシなどが見られ満足です。雨でしたが晴れた日と違う自然が見られました
- ・カヌー漕ぎ
- ・カヌーで川下り、ヤマセミが多く感じました。2016年に塘路湖カヌー下りした時（1週間に2回位、7日以上カヌーで塘路湖～細岡）にくらべてヤマセミが多かった。この時はアオバトが鳴いていた。今年アオバトの声が聴けなかった。カワシンジュガイ採取もおもしろかった。真珠も見てみたいです。いつも有難うございます。参加したら何かしら発見があり、うれしいです。途中カヌーでおりて、復元見学で原野の植生原野でいるが一番美しいと思いました
- ・実際に植生を見ながら説明いただいたこと。カワシンジュガイも初見で感心いたしました。事業内容の図が大変詳細でわかりやすくて良かった
- ・カワシンジュガイ初めて知った。自然再生は時間かかるが成果は確実にある事。
- ・カヌー体験
- ・カヌーに乗り、鳥のさえずり、飛び交う様子はとても楽しかったです。又、カヌーの指導員の方が鳥の説明をしてくれて、鳴き声飛び方で鳥の違いを知る事が出来ました。魚の多さ、貝の多さにびっくり！！

- ・去年植えた樹々を最後に見学させてもらったが、実際に成長したのを見るとまた来年も参加したいと思った。
- ・汗流しながら土を掘った事
- ・国有林での植樹
- ・前年、前々年に植樹した苗木が着実に成長していた事。地道な積み重ねが必要と感じた。
- ・数年前から行っている樹木が育っている事を見れた事
- ・以前植樹した木が育っている事を実感する事が出来た点
- ・天気が良かったこと

■第2回ドングリ倶楽部 参加者回答

- ・土にかえるツリーシェルター初設置
- ・協力しあい植樹が出来たこと
- ・時節柄山の恵が良かったです
- ・日々、地道な活動の大切さを実感しました
- ・植樹をした後の管理（保護管など）良かった

- ・植林に参加したこと。バスの手配はじめ準備など色々のご配慮ありがとうございました
- ・ツリーシェルターが変わったこと
- ・ツリーシェルターについて地球にやさしく土に解けてしまう点、これについて感心を持っていきたい

■市民講座 参加者回答

- ・湧き水の水量が1日30トンとは！自然の恵みは本当にすごい！スケールが違う。
- ・胴長を着て水に入ったのも楽しかった。湿原の中のフニャ地です！「草の下4m」が頭から離れず、草は70cm~100cmあると聞いてとても怖かったです。あとは沼に埋まれたことも印象深かったです。
- ・水がとてもきれいだったこと。
- ・深みにはまったこと。
- ・湿原の中を歩いたこと。キラコタン岬展望。
- ・新庄さんのお話が上手。
- ・湿原を語るにはいろいろと知っていないといけないこと。
- ・全部

- ・講師の方の説明がわかりやすく、釧路湿原を愛していることが良く伝わってきました。ありがとうございました。
- ・湿原の上を散策したこと。
- ・ヨシ・スゲの絨毯のふわふわ感。湧き水の水の綺麗なこと。そして流量の多いこと。
- ・湿原の中に入って泥炭下を直に感じられた。
- ・川の水の美しさ、湧き水の多さ、植物の根の丈夫さ、湿原の役割の多様さ。
- ・湿地内歩行。
- ・体感として、地面(?)のふかふか感を味わえたり沼地を歩けたこと。
- ・湿原の中を歩く、川をわたる。

■水・物質循環見学会 参加者回答

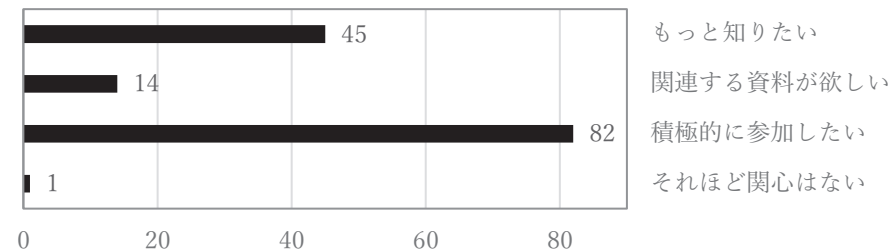
- ・前項&色々企画して頂き楽しい大人の勉強が出来ました。
- ・キラコタン岬で絶えていたと思われていたツルの生息が確認されていた事。
- ・二本松の”ろとう”を見学出来たこと。
- ・釧路川右岸堤防～低層湿原と高層湿原の違い。キラコタンの植物の説明。
- ・ドローンで現在の湿原をライブで見られておもしろかったです。
- ・キラコタンに入れたことが一番感激しました。コッタロ湿原の回復事業にも感心しましたし、二本松での地球の成り立ちに感動しました。
- ・地層の話が湿原のなりたちもよくわかり、とても興味深かった。
- ・晩秋の景色もいいですね。

- ・長期にわたる取組があり、自然が回復してきていることがわかりました。
- ・地質学的に今の釧路の街や湿原の成り立ちの説明を受けて、昔は海が奥深くまで入り込んでいたことを知り、ただただすごいと思いました。いつかはまた海の底に沈むかもしれないと思うとちょっと怖い。
- ・昼食時など皆様との会話からの学び。本日はありがとうございました。
- ・ドローンの離着陸!!ライブ中継。夏ならもっと良いのかな?!あと、露頭!!こっちはドローンで見たいです。
- ・釧路川右岸堤防のシカの群、シカの食害が心配である。天候に恵まれ晩秋の湿原を楽しめました。
- ・ふだんは入れない右岸堤防をまちかで見られ見学出来た。又、1日に何かしょも見学出来、しつ問にも気がるに答えをくれた。

設問8. 今回訪れた事業地では、再生事業が行われています。再生事業について関心はありますか (選択式・複数回答)

○自然再生事業への関心

参加行事 関心度	幌呂 見学会	久著呂 見学会	茅沼 見学会	企業 協働	雷別 トングリ	市民 講座	水循環 見学会
もっと知りたい	4	6	9	3	2	12	9
関連する資料が欲しい	2	2	1	0	2	4	3
積極的に参加したい	15	9	16	8	13	7	14
それほど関心はない	0	0	0	1	0	0	0



～ラムサール条約釧路会議 30 周年記念シンポジウム～
「釧路地域の小・中・高校生による湿原学習発表会」

日 時：令和 5 年 9 月 24 日（日） 10:10～12:10

場 所：釧路市生涯学習センター まなぼっと 2 階多目的ホール

発 表：釧路市立中央小学校 1 名、標茶小学校 2 名、別保小学校 4 名、幌呂中学校 2 名
 散布小中学校 14 名、湖陵高校 4 名、標茶高校 6 名 計 33 名

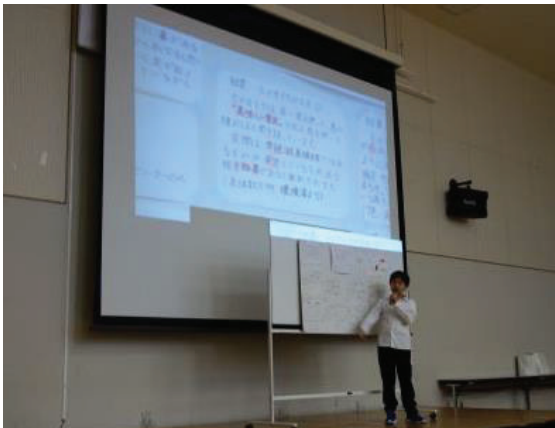
参加者：116 名（学校関係者 25 名、発表者家族 18 名、一般 73 名）

講評者：九州大学 荒谷教授、九州大学修士 1 年 竹下氏、釧路市立博物館学芸員 野本氏
 NPO 法人環境把握推進ネットワーク理事長 照井氏

概 要：各校の発表後、講評者からコメント。全ての発表後、全発表者に記念品贈呈。
 3 月開催の釧路湿原サイエンスフェア 2023 を参考。

共 催：釧路市立博物館、釧路国際ウェットランドセンター、
 科学研究費助成事業 学術変革領域研究(A)「ゆらぎの場としての水循環システムの
 動態的解明による水共生学の創生」

後 援：釧路市、釧路町、鶴居村、標茶町、厚岸町、浜中町、
 釧路湿原国立公園連絡協議会、釧路湿原自然再生協議会



釧路地域の小中高校生による湿原学習発表会 発表内容

	学校名	学年	氏名	題名	内容	
1	釧路市立中央小学校	6	五十嵐 唯蒔	ヒメカイウの赤い実について	ヒメカイウは、なぜ赤い実をつけるのかを調査 【仮説】自分に毒があることを伝えるため、 湿原から実が赤くなる成分を吸い取っているため 【方法】温根内ビジターセンターの職員への聞き取り調査、インターネット 【結果】鳥に美味しい果実だと伝えて食べてもらい、種を遠くへ運んでもらい種の繁栄を狙っている、また、害虫に狙われずらくするため。	
2-1	標茶町立標茶小学校	6	幸坂 春輝	釧路湿原のシラカバについて、標茶のシラカバと比べた調査結果	釧路湿原のシラカバと標茶町内のシラカバに違いがあるかを調査 【方法】枝を顕微鏡で観察 【結果】どちらも3種の微生物（センチュウ、ミドリアプラミミズ、プラナリア）が付着しており違いはなかった。	
2-2		6	小島 しずく	ミゾソバっておいしいの？	ミゾソバ（タデ科イヌタデ属）美味しいのか調査 【予想】渋味や苦みであまり美味しくない 【結果】おひたしを作り食べたところ、あく抜きと味をつければそれなりに美味しく食べることが出来た。	
3	釧路町立別保小学校	5	斉藤 陽葵	別保小 湿原学習レポート	5年生児童が総合的な学習の時間に取り組んでいる湿原学習の、体験および調査に基づいた中間発表。 ・庭の植物と湿原の植物の違い ・なぜ釧路湿原が大事にされているのか ・湿原の空気の質や水質の調査	
			山田 菜菜			
			五十嵐 隼人			
			藤倉 和			
4	浜中町立散布小中学校	5	永坂 蒼星	散布の海の豊かさを守る	小学校：海に関わる環境問題 海に捨てられたゴミの量、種類、海流の循環によるゴミベルトについてウミガメへの悪影響 中学校：湿原学習とあさり島活動 湿原学習 嶮暮島島の説明、落ちていたゴミについて。 あさり島活動 漁協から借用している土地にあさりを撒き、翌年収穫。 漁協で買い取ってもらい、そのお金を地域アピールに使用。	
						檜山 純生
						増井 彪斗
						増井 優希
						柳田 勇飛
		6	野呂 隆雅			
		1	阿部 颯生			
						梅津 花凧
						佐藤 彪琉
						永坂 大虎
			増井 かのん			
		南 寧音				
		柳田 来輝				
	2	泉谷 旬紀				
5	鶴居村立幌呂中学校	1	大瀧 千春	サルルンカムイとわたしたち	・タンチョウ保護の歴史 ・タンチョウの給餌活動（デントコーン収穫、給餌、調査） ・温根内での湿原学習について	
		2	岡田 穂莉			
6	北海道釧路湖陵高校	1	青山 奏音	釧路湿原に関わるプログラムについて	湿原巡検の活動内容について ・温根内の水質調査、ハンノキ林調査 ・衛星画像解析 ・昆虫調査	
			江端 樹生			
			奥野 由捺			
			金澤 悠介			
7	北海道標茶高校	3	小島 すばる	ヒグマ 野生との共存	・ヒグマに関する人々のイメージを形作るもの （写真、事件、ニュース、アニメ、うわさ、ゲーム、漫画、ぬいぐるみ） ・ヒグマによる事件（札幌丘珠事件、三毛別ヒグマ事件等） ・OSO18について （基本情報、被害、何故怖がるのか、何故肉食になったのか） ・これからのヒグマとの共存について（保護と対策）	
			吉田 りこ			
			せぎね すずか			
			わかもり だいき			
			つじ しょうた			
			いとう けいいち			

ラムサール条約釧路会議30周年記念シンポジウム

どうする？ 釧路湿原 ～未来への提言～

お知らせ

- 釧路地域の小・中・高校生による湿原学習発表会資料の展示会

日時：2023年10月10日(火)～20日(金)
8：50～17：20 ※土日祝除く

場所：釧路市黒金町8丁目2番地
釧路市役所防災庁舎1階 展示ホール

- 午後の講演に対していただいた質問への回答は 博物館ウェブサイトに掲載します。



- 共催：科学研究費助成事業 学術変革領域研究(A)「ゆらぎの場としての水循環システムの動態的解明による水共生学の創生」・釧路市立博物館・釧路国際ウェットランドセンター

- 後援：釧路市・釧路町・鶴居村・標茶町・厚岸町・浜中町・釧路湿原国立公園連絡協議会・釧路湿原自然再生協議会

日時

2023(令和5)年

9月24日(日)

10:00～16:30(開場 9:30)

会場

釧路市生涯学習センター

まなぼっと幣舞 2階 多目的ホール

(釧路市幣舞町4-28)



釧路市立博物館



ラムサール条約釧路会議30周年記念シンポジウム タイムテーブル

● 10:00 ~

開会挨拶 釧路国際ウェットランドセンター理事長 (釧路市長) 蝦名 大也
趣旨説明 水共生学・九州大学教授 荒谷 邦雄

午前の部 釧路地域の小・中・高校生による湿原学習発表会

● 10:10 ~ 12:10

学習発表 「ヒメカイウの赤い実について」
釧路市立中央小学校6年 五十嵐唯蒔

「釧路湿原のシラカバについて、
標茶のシラカバと比べた調査結果」
標茶町立標茶小学校6年 幸坂 春輝

「ミゾソバっておいしいの？」
標茶町立標茶小学校6年 小島しずく

「別保小 湿原学習レポート」
釧路町立別保小学校5年 齊藤 陽葵 山田 栞菜
五十嵐隼人 藤倉 和

「散布の海の豊かさを守る」
浜中町立散布小中学校
小学5年 永坂 蒼星 榎山 純生 増井 彪斗
増井 優希 柳田 勇飛
小学6年 野呂 隆雅
中学1年 阿部 颯生 梅津 花凧 佐藤 彪琉
永坂 大虎 増井かのん 南 寧音
柳田 來輝
中学2年 泉谷 旬紀

「サルルンカムイとわたしたち」
鶴居村立幌呂中学校1年 大瀧 千春
2年 岡田 穂莉

「釧路湖陵高校
釧路湿原に関わるプログラムについて」
北海道釧路湖陵高等学校1年 青山 奏音 江端 樹生
奥野 由捺 金澤 悠介

「ヒグマ 野生との共存」
北海道標茶高等学校3年 小島すばる 吉田 りこ

全体講評、記念品贈呈

午後の部 講演会

● 13:00 ~ 16:30 ※途中で2回休憩時間を設けます

基調講演 「釧路会議」が地域を変えた
釧路国際ウェットランドセンター技術委員長 新庄 久志
ラムサール釧路会議は、ラムサール条約を理解する機会を人々に提供するだけでなく、釧路湿原とともに歩む道を示してくれました。本講演では釧路会議が地域へどのような影響を与えたのか紹介します。

気候変動と釧路湿原の保全

北海道大学大学院農学研究員教授 中村 太士
釧路湿原自然再生協議会会長
ラムサール条約登録以降も、釧路湿原は様々な課題を抱えてきました。本講演では、釧路湿原が抱える課題を説明し、課題解決のために実施してきた自然再生事業について述べます。また、将来に向けた新たな課題である気候変動の緩和・適応策と生物多様性保全の両立について持論を展開します。

事例報告 釧路湿原における人と自然の共生

水共生学・九州大学教授 荒谷 邦雄
釧路湿原は日本最大の湿原であり、多数の希少な生物が生息しています。しかしながら近年の温暖化に伴う急激な乾燥化や耕作放棄地へのソーラー発電建設ラッシュなど、湿原の貴重な生物多様性は危機的な状況にあります。この状況に我々はどう対応すべきなのか一緒に考えましょう。

釧路湿原の過去・現在・未来～水共生学の観点から～

水共生学・九州大学准教授 渡部 哲史
地球温暖化は気温が高くなるだけでなく、雨や雪の降り方、霧の発生頻度にも大きな変化をもたらします。湿原の環境を大きく変えるのは日々の気象の変化です。釧路湿原の気象が過去から現在、そして未来にどのように変わると考えられているかお話しします。

釧路市の小学生を対象とした湿原の環境教育の実施

水共生学・九州大学准教授 木附 晃実
釧路湿原にまつわる環境問題を、皆さん一人一人が自分事として考えるためにはどうすれば良いでしょうか？そのための取り組みの一つとして本年度実施した、釧路市内の小学校4年生から6年生までを対象とした環境教育の授業を紹介します。

総合討論

モデレーター：九州大学教授 鬼丸 武士

● 16:30

開会挨拶

釧路市教育委員会 教育長 岡部 義孝

※敬称略

釧路湿原自然再生協議会 再編成に関する資料

地域づくり小委員会事務局
再生普及小委員会事務局

合同開催の経緯

1. 釧路湿原自然再生協議会の再編成について

◆協議会の現状の課題

- ・ 会議のマンネリ感
試行錯誤の段階を経て、会議が議論の場から報告の場として終始。
- ・ 専門委員の高齢化
- ・ 働き方改革、人員・予算が限られる
潤沢に労力を費やせる時代でなくなった。そのなかでの持続的なやり方の模索。

◆なぜ今か

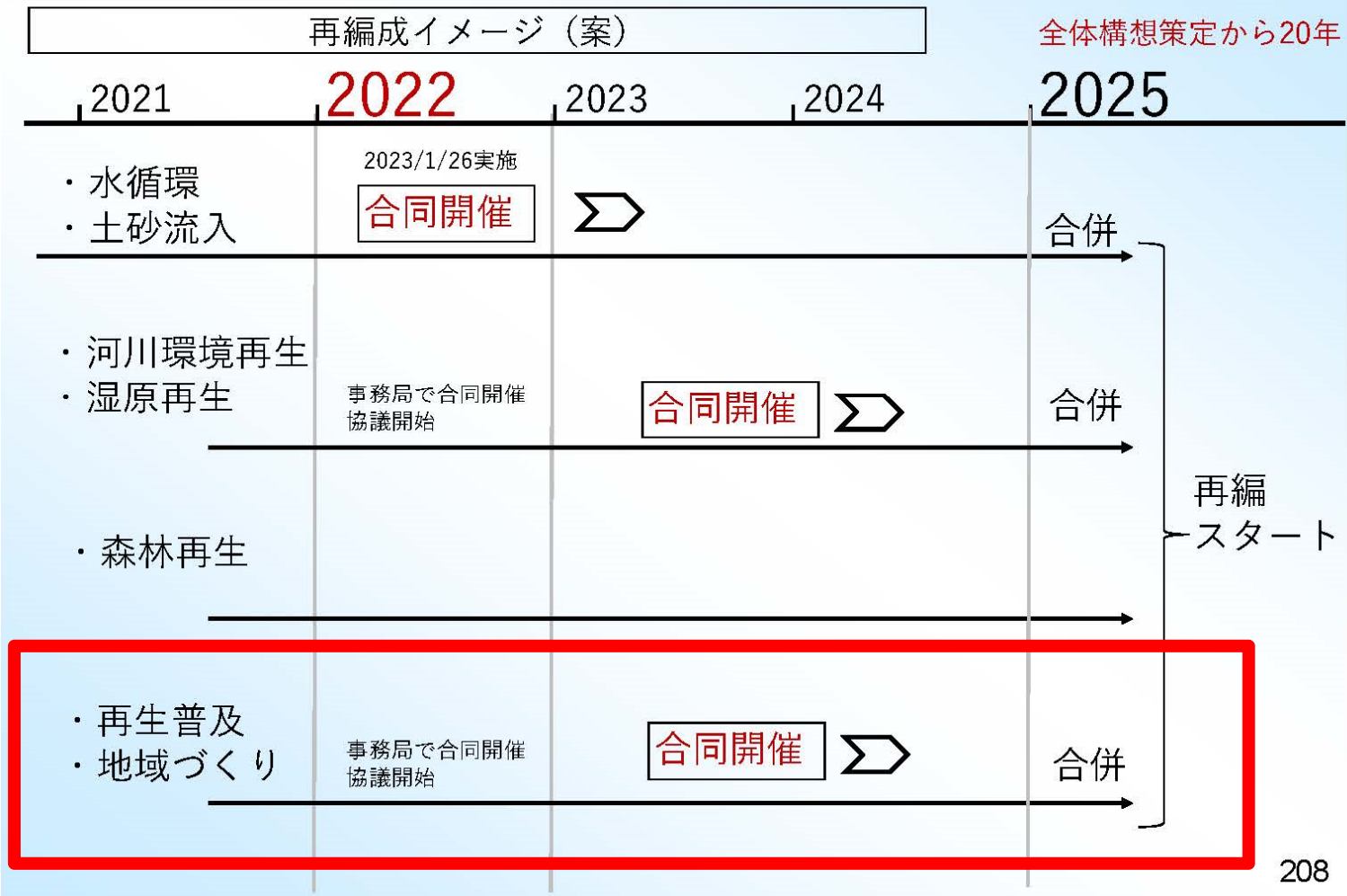
- ・ 気候変動・カーボンニュートラルなど社会・地域課題の変化
- ・ 全体構想策定から20年の2025年が次のスタートの節目となる
- ・ 取り組み内容、事業の切れ目（水循環、土砂流入）のタイミング

◆改善案

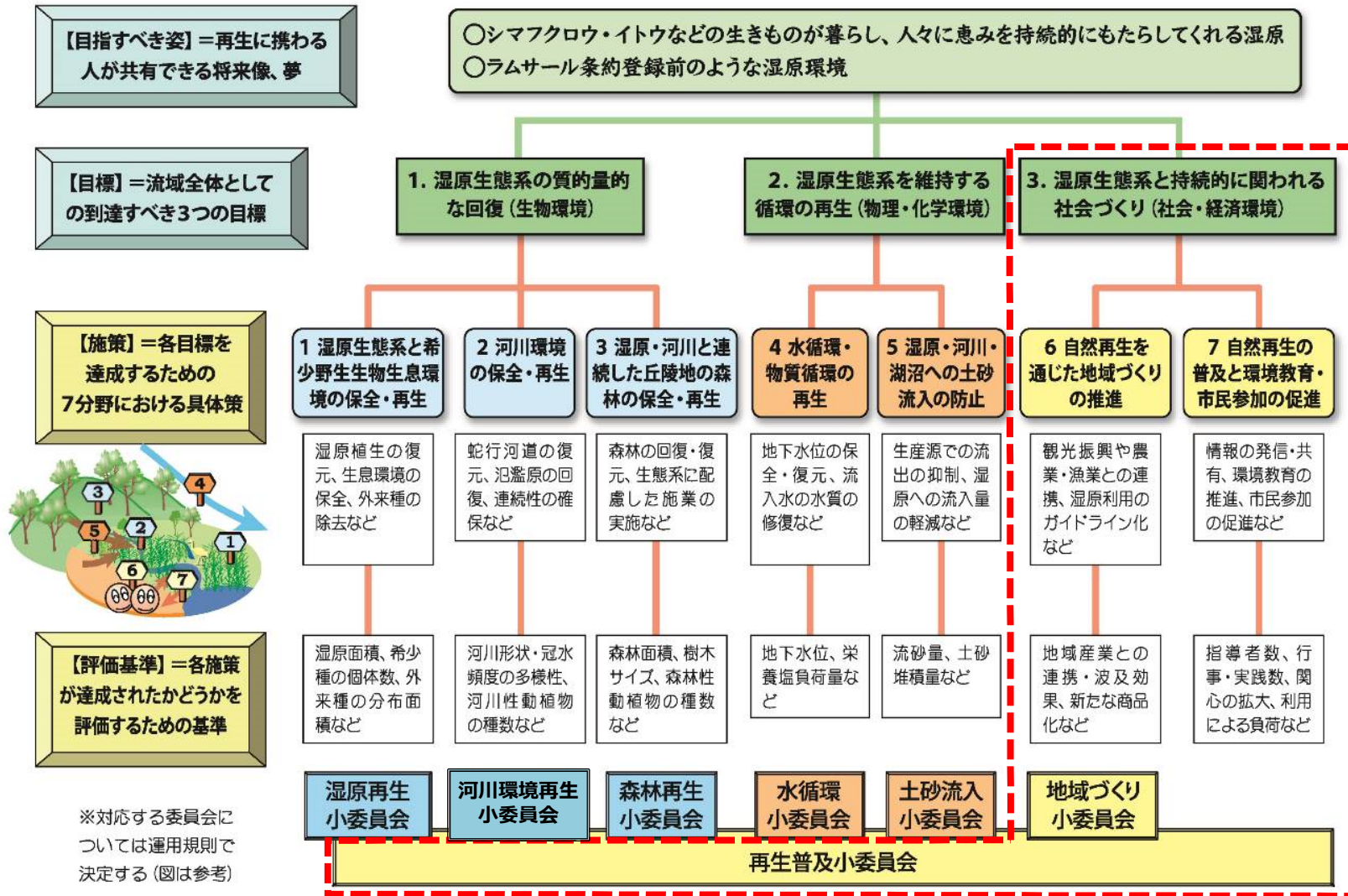
- ・ 協議会、小委員会の省力化：合同小委員会の開催から、将来的には全体再編

合同開催の経緯

1. 釧路湿原自然再生協議会の再編成について



自然再生協議会



※対応する委員会については運用規則で決定する (図は参考)

地域づくり小委員会・再生普及小委員会事務局からの補足

○将来の合併に向けた合同開催の捉え方

- ・再生普及小委員会と地域づくり小委員会が全体構想で示されている社会・経済環境の分野を担っています。
- ・この両小委員会がそれぞれの取り組みを進めてきましたが、一緒に協議したほうが協議会として有益な時期になりました。
- ・将来的に一緒になることを見据えながら、まずは移行期間として、両小委員会の委員が両方に参加できること、混乱しないよう最初は両小委員会の従来のスタイルを踏襲できるようにすることを踏まえて同日の並列開催としました。

○合同小委員会への協議への参加について

- ・再生普及小委員会と地域づくり小委員会それぞれに所属している委員の皆さまは、所属していないほうの小委員会の内容への意見や討議参加も可能とします。
- ・これまでの両小委員会での協議の経緯（議論の積み重ね）もありますので、お互いの取り組みの考え方などは尊重して発言されるようお願いいたします。

■再生普及小委員会と地域づくり小委員会の合同開催から合併への流れ（案）

